

平成30年度

福井県

白川文字学ゼミ

会員募集！

専門家のお話を間近でお聞きできるチャンスです。
白川文字学や漢字に興味のある方、ぜひご応募ください。

- 期 間 1年（年間計画については裏面参照）
- 受講料 無料
- 対 象 白川文字学や漢字文化に興味・関心がある方
- 申込方法 次の①～⑤を明記の上、郵送、FAX、メール、
または直接申込先へ
- ①氏名 ②住所 ③生年月日 ④電話番号 ⑤職業
- 申込先 福井県教育庁生涯学習・文化財課
〒910-8580 福井市大手3丁目17-1
TEL 0776-20-0559
FAX 0776-20-0672
MAIL syoubun@pref.fukui.lg.jp

孫が学校で習った
という白川文字学
のことをちょっと勉
強してみたいわ。



ゼミを通して、漢字
の歴史や文化を学
びたい！

H30 福井県白川文字学ゼミ 申込書

①お名前

②ご住所

③生年月日

④電話番号

⑤ご職業

平成30年度 福井県 白川文字学ゼミ 講座計画

日時・会場・定員	講師	プロフィール	講座内容	会員による学習会
第1回 6/19(火) 14:30～ 県立図書館 研修室 50名	高島 敏夫氏 	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所客員研究員。甲骨文と金文を用いて、古代中国の歴史と文化を研究している。 著書：『甲骨の誕生 - 原論』（人文書院） 『白川文字学の原点に還る「甲骨金文学論叢」を読む』（朋友書店）『西周王朝論《話体版》』（朋友書店） 共著：『白川静を読むときの辞典』（平凡社） 『入門白川静の世界』（平凡社）など。	「甲骨文（卜辞）を読む一王が『敵の来襲』を予言するの巻」 甲骨文の字形から文字の成り立ちを考えるだけの初歩的な段階から、一歩進んで甲骨文の言語世界に分け入る段階へとレベルアップして頂く試み。甲骨文で記された文（卜辞）を実際に書きながら読み進めていく。	開講式 ○
第2回 7/27(金) 14:00～ 鯖江市文化 センター 図書室 50名	久保 裕之氏 	立命館大学社会連携部社会連携課職員、白川静記念東洋文字文化研究所所員。「漢字教育士」として、漢字の成り立ちなどを共に学ぶ「漢字探検隊」を全国で開催している。テレビ番組「NEWS ZERO(ZERO human)」(2015年)において、漢字教育士としての活動を紹介されている。	「漢字文化圏の現状と漢字・漢文を用いた交流」 白川先生があこがれた「東洋」、その文化的結合の要は「漢字・漢文」であった。東アジア漢字文化圏諸地域での漢字文化の現状と、漢字・漢文を用いた交流の歴史を概観する。	○
第3回 8/8(水) 14:00～ パレア若狭 研修室 50名	笹原 宏之氏 	早稲田大学社会科学部・社会科学総合学院教授、国字研究の第一人者。文化庁文化審議会国語分科会で、常用漢字の選定・改定作業に携わる。経済産業省「JIS漢字」、法務省「人名用漢字」の改定にも関わる。白川静記念東洋文字文化賞優秀賞受賞。 著書：『謎の漢字—由来と変遷を調べてみれば』（中公新書）『日本人と漢字』（知のトレッキング叢書）『方言漢字』（角川選書） 『国字の位相と展開』（三省堂、金田一京助博士記念賞受賞）など。	「漢字の層と面」 漢字は種類が多く、形も複雑で新旧があり、読み方も様々である。漢字をめぐる空間の広がりや「面」で、時間の流れを「層」で捉えてみると、中国の漢字と日本の漢字の特色が浮かび上がってくる。それらを知ることで苦手意識も減る。さらに日本の複雑な漢字について、種々の層に当てはめてみると、きれいに理解できて、記憶しやすくなる。日本の漢字はなぜ複雑なのか、中国の漢字はどうして簡素なのかという原因も理解できるように解説する。	○
第4回 11/21(水) (白川静漢 字教育賞表 彰式) 県立図書館 多目的ホール 100名	石川 九楊氏 	福井県今立郡今立町（現・越前市）生まれの書家・書道史家。福井ゆかりの作家の一人。京都大学法学部卒業。元京都精華大学教授、現在同大学デザイン学部客員教授。NHK「趣味どきっ」講座講師（2015年）テーマ「臨書入門」 著書：『書の終焉』（同朋舎出版、サントリ一学芸賞受賞）『日本書史』（名古屋大学出版会、毎日出版文化賞受賞）『近代書史』（名古屋大学出版会、大佛次郎賞受賞）『九楊先生の文字学入門』（左右社）『石川九楊著作集』全12巻（ミネルヴァ書房）など。	「日本における文字文化」 無文字文化で倭語を使用していた弧島である日本に、漢字はいつ、どのようにして伝わったのか。その結果、日本文化はどのように進化したのか。白川文字学に触れながら、秦代を境に宗教国家から政治国家へ移行したことと日本との関係について、漢字、平仮名、片仮名を使用する日本独自の文字文化に切り込んで解説する。	—
第5回 12/4(火) 14:30～ 未定 50名	萩原 正樹氏 	立命館大学文学部教授、白川静記念東洋文字文化研究所運営委員。中国文学、日本漢文学専門。中国古典文学（唐宋詞）、明治大正期の詞学を研究している。 著書：『詞譜』及び森川竹磔に関する研究』（中国芸文研究会）『森川竹磔『詞律大成』本文と解題』（風間書房） 共著：『杜甫全詩訳注（四）』（講談社）など。	「白川静の詩経研究」 白川静先生は、漢字研究のみならず、中国古代文学の研究においても大きな業績を残された。特に詩経研究は晩年まで続けられ、先生のライフワークとも言えるものである。先生の詩経研究について概説し、その独創性や文学性について考えていく。	○
第6回 2月予定	ゼミ会員による交流会			

- 1 上記の講座は、福井ライフ・アカデミー連携講座となっており、一般の方にも公開されます。
- 2 ○の付いているものは、講座終了後、講師を交えた会員による学習会（約30分）を実施する予定です。